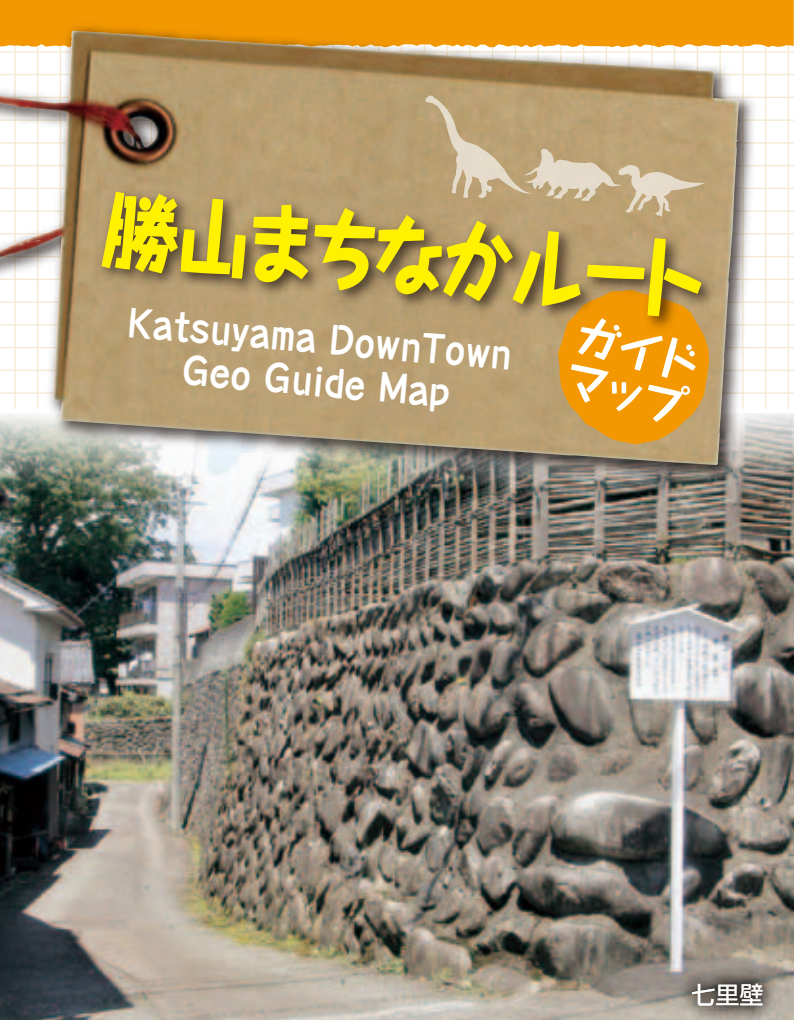




恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会／勝山市

3 おおしやうす 大清水

大清水は、勝山の中心市街地を形成する河岸段丘の最も低い段丘面（平らな部分）から湧き出しているものです。それらの湧水は、この段丘面より高い位置にある段丘面の河川の水や雨水などが地下に浸透したものです。昭和30年代までは、洗い物など生活用水に利用されていました。

かつては、市街地の数ヶ所に清水がありましたが、現在湧き出しているものはここだけとなりました。

また、日清戦争後、毎年7月末に、後町十人組の有力者が豊富な水に感謝するために不動尊を祭った大清水祭が開催されています。

4 しちりかべ 七里壁

この壁は、勝山の中心市街地をほぼ南北に縦断する高さ5～6mの段丘崖の一部で、九頭竜川の侵食、運搬、堆積といった河川的作用と土地の隆起によりつくられました。その段丘崖は、勝山市平泉寺町大渡付近から下流方向にかけ断続的にみられ、その長さは約20km余りある



天然の冷蔵庫 大清水



七里壁

勝山まちなかルート

「勝山まちなかルート」は、主として九頭竜川によってつくられた「河岸段丘」と「水」をテーマに、大地や自然と勝山の人々の歴史や暮らしづくりとの関わりを探れる中心市街地のジオパークコースです。
九頭竜川に沿ったかたちで2～3段ある段丘面（平らな面）と七里壁と呼ばれる段丘崖（急な崖）が、中心市街地の地形を特徴付けています。また、段丘崖下からは段丘面を流れる河川や雨水が伏流水（地下に浸透した水）となって湧き出している「大清水」があります。勝山の人々は、古くから生活の中に、この段丘地形や湧水を巧みに利用してきました。河岸段丘上に形成された中心市街地には、城下町のなごりや史蹟、勝山左義長まつりなどといった歴史・文化遺産が多数あります。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

「ジオパーク（Geopark）」とは、地質・地形を野外や博物館などで実際に見て、本やインターネットでは得られない手触りや体験、その迫力から「地球」や「大地」の秘密や歴史を探り、自然や人の生活にどのように関わっているか考えることができる場所のことです。

「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」は、勝山市全域をエリアとし、「恐竜はどこにいたのか？大地が動き、大陸から勝山へ」をテーマに掲げ、恐竜が大陸で生きていた頃から勝山で発見されるまでの間の地球活動の遺産やそれに関わる人々の暮らしづくりを訪れる人々が目で見、肌で感じることができるジオパークを目指しています。

ジオパーク、勝山まちなかルートに関する連絡先

〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1
勝山市役所内 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会事務局
TEL：0779-88-1111 FAX：0779-88-1119
E-mail：fk-geo@city.katsuyama.lg.jp
HP：http://www.city.katsuyama.fukui.jp/geopark/

ことから勝山の人からは「七里壁」と呼ばれています。
江戸時代には、七里壁を境に一段高い段丘面に武家屋敷が、低い段丘面には町屋・寺院が配置され城下町が形成されていました。

5 坂道の景観

勝山の中心市街地は、2～3段の河岸段丘が九頭竜川に沿って発達していることから、東西に横切る道は坂道になっています。その坂道には、逸話とともに名前が付けられ、おたね坂・石坂・追手坂・神明坂・小姥母坂などの坂名が今に伝えられています。



おたね坂



石坂

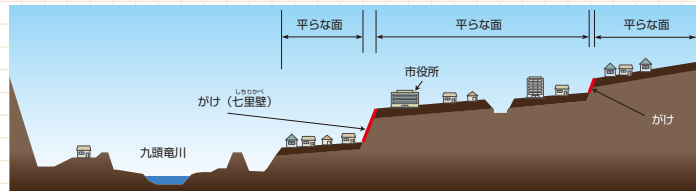
6 街並み景観（城下町街路景観）

江戸時代に入り、勝山には城下町が形成されるようになりました。城下町の街路は、かぎ型・T字型・袋小路型など、複雑な街路形態になっています。

現在では、道路幅が拡幅されたり、直線化されたりして、城下町の街路の面影はなくなりつつありますが、大通りから入っ

河岸段丘とは

河岸段丘とは、2～3段の段丘面（平らな面）と段丘崖（急な崖）からなる階段状の広がる地形のことを言います。
勝山の河岸段丘は、数万年前に主に九頭竜川の侵食と堆積、土地の隆起が繰り返され形成されました。



勝山市街地における河岸段丘の断面図

1 えちぜん鉄道勝山駅舎

勝山は、早い時期から豊かな水利資源が注目され、山間の峡谷部などを利用して水力発電所が設置されてきました。現在の北谷町中尾には、明治41年、福井県下で2番目の水力発電所（中尾発電所）が建設され、織物工場や一般家庭に電気が供給されていました。大正3年、より安定した電力の供給先として、電力会社自らが鉄道事業に乗り出したものが、福井ー勝山間の越前電気鉄道（現在のえちぜん鉄道）です。



国登録文化財 勝山駅舎

た旧市街地の一部に見られ、城下町の風情を感じることができます。



風情ある街並み景観

7 はたや記念館ゆめおーれ勝山

明治38年から平成10年まで勝山の中堅機業場としていた建物を保存・活用した勝山市の繊維の歴史や技術が学べ、体験できる繊維ミュージアムです。国の近代化産業遺産、勝山市指定文化財に指定されています。（近代化産業遺産には、ほかにケイター資料館や㈱東野東吉織物などが指定されています。）

この地で繊維産業が発達した背景として、湿潤な気候、水力発電所建設、そして、ねばり強く耐え抜くといった勝山人の気質をあげることができます。

はたや記念館ゆめおーれ勝山 TEL0779-87-1200



勝山市の繊維の歴史や技術を体感

和洋折衷のデザインが採用されている勝山駅舎（国登録文化財）やかつて現役で走っていたテキ6（ML6）が現在のえちぜん鉄道勝山駅前のロータリー横に動体保存されています。



テキ6（ML6）

2 九頭竜川（勝山橋）

勝山橋から眺める九頭竜川は、川幅約250m～375mで、河床にはかなり大きな丸い石（円礫）や中州も見られるなど、中流域の河川景観となっています。
九頭竜川は、古くより地域の人々と密接に結び付き、農業用水として利用されるなど多くの恩恵をもたらすとともに、その反面、「崩れ川」、「暴れ川」として洪水による甚大な被害をもたらしてきました。流域を洪水被害から守るためダム建設や河川改修などの治水事業が行われ、流域の安全・安心が確保されています。



勝山橋から見た九頭竜川の風景



上流から流れてくる大きな丸い石

市内唯一の酒蔵

勝山市は、霊峰白山の懷に抱かれた盆地地形であり、清らかな水、美しい田、厳寒の冬といった酒造りに最適な環境が揃っています。
明治35年創業の一本義久保本店は、現在勝山市内唯一の造り酒屋として、勝山小笠原藩の御用酒銘「一本義」を今に受け継いでいます。キレイな味わいの辛口酒が基調です。
㈱一本義久保本店 TEL0779-87-2500



水がうまいから酒も美味しい

勝山左義長まつり

毎年2月最終土曜日に「勝山左義長まつり」という奇祭が行われます。左義長まつりは、全国様々なところで行われていますが、勝山の左義長まつりは、市街地に12基の櫓がならび、櫓の上で太鼓や三味線の独特の左義長ばやしが奏でられるのがその特徴です。

この祭りの起こりは、七里壁（段丘崖）より下の段丘面で生活をしていた町人の行事（祭）としてはじめられました。



太鼓や三味線の左義長ばやし

勝山まちなかルート

～階段状の地形の上にある
文化的景観を楽しもう！～

ルートコースのおよその距離 及び所要時間

ルートコースのおよその距離及び所要時間 Walking

- ①えちぜん鉄道勝山駅舎
↓ (10min) 400m
- ②勝山橋
↓ (15min) 700m
- ③大清水
↓ (10min) 400m
- ④七里壁 → ⑥金燈籠、城下町景観、
↓ (10min) 400m ⑤坂道景観
- ⑦はたや記念館ゆめおーれ勝山
↓ (15min) 700m
一本義

※所要時間は片道のもので、徒歩（大人）による標準的な移動
時間です。



勝山駅舎



九頭竜川（勝山橋）



大清水



七里壁

